

平成16年10月15日

立川市教育委員会

委員長 志村 順子 殿

立川市学校給食運営審議会

会長 宇 都 宮 透

新学校給食共同調理場建設計画について（答申）

平成16年4月23日付立教給発第5号をもって、立川市教育委員会より諮問のありました標記の件について、本審議会は別添のとおり答申いたします。

つきましては、立川市教育委員会が本答申を十分に考慮した上で、新学校給食共同調理場建設計画を策定することを強く要望いたします。

# 新学校給食共同調理場建設計画について

答 申

平成 16 年 10 月

立川市学校給食運営審議会

# 新学校給食共同調理場建設計画について

はじめに

このたび本審議会は、立川市教育委員会より新学校給食共同調理場建設計画について、次の内容の諮問を受けました。

- 1 現行の共同調理場2場方式を見直し、新施設として1場に統合することについて
- 2 多角的見地から、今後の小学校給食業務の効率的な運営方法について
- 3 「食物アレルギー対策室の創設」や「高齢者への給食対応」など、多面的な機能を備えた新共同調理場運営のあり方について

立川市における小学校給食は、単独校方式と共同調理場方式によって運営されています。現在及び将来の立川市学校給食行政において、社会情勢や税金の有効な使い方などを考えると、今後も共同調理場方式は継続させることが必要と考えます。しかしながら、児童数の減少や施設の老朽化問題などから、現行の共同調理場2場運営については見直しの必要があり、かつ建替えが不可欠なことは容易に判断できます。

本審議会は、今回の諮問内容の審議にあたって、安全衛生の徹底された効率的かつ効果的な給食施設を建設することを念頭におき、今後の給食施設の運営方法やあり方などについて適確に把握することが重要と考え、慎重に審議した結果をここに答申します。

## 1 「現行の共同調理場2場方式を見直し、新施設として1場に統合することについて」

### (1) 現状分析、問題点及び今後の課題

- ① 第一・第二共同調理場の両施設とも、老朽化が激しく安全衛生管理の観点から改善の必要があります。
- ② 児童数がピーク時から半減しており、現在及び将来の調理食数等から判断すると、現行の2場運営は非効率的であると判断します。
- ③ 建設場所については、候補地周辺の住民をはじめ、市民の声に耳を傾ける必要があります。
- ④ 建設方法については、最も合理的な手法を研究する必要があります。

### (2) 検討内容並びに意見

1場統合化は、学校給食を効率的に運営し、経費節減や税金の有効活用等の観点から必要不可欠と考え検討しました。また、建設場所については、予算面等からも旧多摩川小学校跡地を第一候補地として考えますが、配送距離や配送時間などの問題が懸念されることから、子ども達への安全で美味しい給食の提供を最優先に考え、最善の方策で新施設の建設を要望することとしました。

代表的な意見として、

- \* 現在の第一共同調理場は狭いため増改築は困難であり、また、第二共同調理場で給食調理を継続しながらの増改築は、衛生面から厳しいものがあります。
- \* 旧多摩川小学校跡地の利用に関しては、地域の方々の意向を尊重する必要があります。
- \* 旧多摩川小学校跡地は市の最南部であり、最北部に位置する若葉小学校への配送（距離・時間）の問題への対策が求められます。
- \* 新施設の内容については、外部の意見だけではなく、中で働いている人達の見聞も聞いて、よりよい方向へ持って行っていただきたい。
- \* 衛生管理や労働安全面での具体的な施設・設備の内容については、ハサップ、ドライ方式、オール電化の導入を含めて、最上級のものを目指して、努力していただきたい。
- \* PFI方式を含む建設手法については、内容の専門性から審議会としては立ち入ることを控えますが、最善の建設手段をとるよう要望します。

これらの意見をもとに検討しました。

### (3) 結論

**\* 1場統合化による新施設を建設すべきです。なお、計画策定においては、下記の要件を十分念頭に置くことを要望します。**

- ① 建設場所については、旧多摩川小学校の跡地(校庭)が、給食の継続的な供給及び予算的な面から、最適の候補地です。ただし、配送(距離・時間)には問題があると考えられるので、安全性と給食の質を低下させない配送方法の構築を要望します。また、地域住民の意向を十分反映するための機会と時間を確保することが必要です。
- ② 建設方法については、PFI方式を採用するか否かも含め、教育委員会に一任します。また、施設・設備等内容については、ハサップ、ドライ方式、オール電化を積極的に導入することにより、衛生的で安全が保証され、望ましい労働環境を確保することができる最上級のものとするを要望します。

## 2 「多角的な見地から、今後の小学校給食業務の効率的な運営方法について」

### (1) 現状分析、問題点及び今後の課題

- ① 学校の長期休業期間中は、共同調理場施設及び調理等業務が休止しており、施設や調理職員の有効活用について検討を要します。
- ② 調理職員の人件費割合を下げる工夫をはじめ、コスト意識を持つ必要があります。
- ③ 小学校給食業務の効率化・委託化などを進めることにより、給食の安全性確保や責任の明確化などとの整合を図ることも課題であります。

### (2) 検討内容並びに意見

現段階での業務の委託化については、給食の安全性の確保や責任体制の明確化など、まだまだ不安の残る部分があり、現状では直営が望ましいと考えています。しかし、市の財政状況や社会の推移などを勘案すると、今後、給食運営の効率化を進める上で人的部分のコスト削減については、調理業務等の委託化を視野に入れるべきか検討をしました。なお、教育委員会及び立川市が本計画を進めるためには、保護者・市民・市職員組合などとの話し合いを十分行い、委託化に関する不安や疑問の解消に努めるべきと考えます。

代表的な意見として、

- \*給食は、安心して食べられるものを提供していただきたいので、できれば直営を希望いたします。確かに直営はコストがかかると思われますが、学校教育にお金をかけることに反対する人はいないと思います。
- \*現在の厳しい財政状況を考えるべきではないでしょうか。市民の中の小学生割合を考えると、小学校給食だけに潤沢に経費をかけることは税の使い道の不公平につながるのではないかと懸念いたします。
- \*委託した場合、市の考え方及び方針が受託業者に徹底されるか否か、不安があります。
- \*委託をすることが、無責任ということにはならないと思います。受託した会社は、利潤を追及するがゆえに、責任をもって業務を遂行するのではないのでしょうか。
- \*委託を含めいかなる運営方法とするかについては、外部の意見だけでなく、中で働いている人達の意見も聞いていただきたいと思います。
- \*人件費削減の流れは理解できます。給食行政、アレルギー対策を含む栄養士業務等行政責任で行うべき主要な部分は直営としながら、委託が可能な部分については委託化も視野に入れ、子ども達が安心して食べられる給食を最も適切な運営方法で提供することを要望いたします。

(少数意見)

- ・単独校方式が理想なので、将来的には単独校方式にしていきたいと思います。これらの意見をもとに検討しました。

### (3) 結論

- \*立川市の将来を担う子ども達の健全な成長を願う上から、小学校給食には相応の経費負担を行うのが好ましいが、他の税負担との均衡を図ることもまた必要です。
- \*小学校給食は、これまでどおり市の直営としつつ、より一層の効率的運営を図るためには、調理業務をはじめ可能な部分は委託化の範囲を拡げて行くべきです。

### 3 「食物アレルギー対策室の創設や高齢者への給食対応など、多面的な機能を備えた新共同調理場運営のあり方について」

#### (1) 現状分析、問題点及び今後の課題

- ① 食物アレルギー児童が増加しており、共同調理施設においてもその抜本的な対応策をとることが求められています。
- ② 共同調理場を学校給食の提供にしか使用しないことは、稼働率の観点から、限られた財源の効率的な運用といえません。
- ③ 今後の公共施設のあり方を広義に研究し、市民の多様な要望に応える多機能型施設とすることを課題と捉えます。

#### (2) 検討内容並びに意見

多面的な機能を備えた新共同調理場については、食物アレルギー対策、高齢者への給食対応など、多様な展開が考えられます。予算面での制約や、市の組織上、他の所管部署との連携や調整を図ることの難しさもありますが、可能な範囲で多機能型の施設を前提に計画することが望ましいと考え、検討をしました。

代表的な意見としては、

- \* 食物アレルギー対策は、当然のこととして取り組むべきと考えます。
- \* その他の複合多面的な施設建設及び運営といたしまして、(ア)高齢者への給食対応、(イ)地域開放型の料理教室等、(ウ)雨水等中水を利用しての屋上緑化や施設周辺の小公園化、(エ)公民館、市の出張所等の施設や、展望食堂、(オ)生ゴミ等の活用、(カ)ソーラー発電・風力発電等が考えられます。
- \* 高齢化社会の進展に伴い高齢者給食の需用が増大しています。施設稼働率向上にも資する高齢者給食(ア)は、ぜひ実施すべきと考えます。
- \* 地域開放型で高齢者対応も含む給食施設(ア、イ、エの展望食堂)は地域住民の希望するところでもあります。
- \* 環境対策上有効な諸機能(ウ、オ、カ)は、設計・建設段階から極力考慮して欲しいところです。
- \* 災害時に配食できる耐震構造施設として設計することが求められます。

(参考意見)

- ・高齢者給食は、配達後の劣化等のリスクがともないます。また、学校給食はあくまで安全が第一であり、施設内に不特定多数人が出入することとなる施設の多機能化には、慎重であるべきと考えます。

これらの意見をもとに検討しました。

#### (3) 結論

- \*食物アレルギー対策室の創設は、行政責任で行うべき主要な給食施策であり、実現を要望します。
- \*高齢者給食を始め、地域開放型のサービスなど、小学校給食の安全な供給を最優先としつつ、広い視野に立って計画策定をする必要があります。
- \*多面的な機能を備えた新施設については、環境対策上有効な諸機能を持たせると共に、耐震構造を設計段階から盛り込むことを要望します。

おわりに

本審議会は、教育委員会からの諮問について、学校給食行政の実状を踏まえて具体的に論議し、将来への見通しを持ちながら、立川市における新学校給食共同調理場の効率的な運営方法などのあり方及び施設内容などについて示すことを目指しました。

本審議会としては、現行の学校給食共同調理場を1場化することとし、その中で市民の要請に対応しうる種々の機能を備えた最善の新施設を建設することが最も望ましいとの結論に達しました。

新学校給食共同調理場建設については、立川市第二次基本計画に盛り込み、早期に実現されるよう強く要望いたします。

# 資 料

- \* 立川市学校給食運営審議会審議経過
- \* 立川市学校給食運営審議会委員名簿
- \* 立川市学校給食運営審議会答申起草部会委員名簿
- \* 新学校給食共同調理場建設計画について（諮問）

## \* 審議に使用した協議資料（表題のみ）

「新学校給食共同調理場建設について（案）」

「設計・施工一括発注方式やP F I方式の概要」

「立川市立小学校児童数推移表」（表及びグラフ）

「立川市新学校給食共同調理場建設概要」

「学校給食共同調理場運営費比較表」

「立川市と上三川町の市勢概要」

「福島県川俣町の場合－P F I手法を視野に学校給食センターを整備」

「平成15年度学校給食に係るコスト」

「平成16年度学校給食共同調理場稼働予定表」

「学校給食における食物アレルギー児童の対応及び栄養指導（食教育）」

## 立川市学校給食運営審議会審議経過

|     |                                    |  |
|-----|------------------------------------|--|
| 第1回 | 平成16年4月23日(金)                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1、諮問</li> <li>2、諮問書説明</li> <li>3、資料説明</li> <li>4、総括質疑応答</li> </ul>  |
| 第2回 | 平成16年5月28日(金)                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1、諮問1の審議</li> </ul> <p>「現行の共同調理場2場方式を見直し、新施設として1場に統合することについて」</p>   |
| 第3回 | 平成16年6月25日(金)                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1、諮問2の審議</li> </ul> <p>「多角的な見地から、今後の小学校給食業務の効率的な運営方法について」</p>   |
| 第4回 | 平成16年7月30日(金)<br><br>平成16年8月11日(水) | <ul style="list-style-type: none"> <li>1、諮問3の審議</li> </ul> <p>「『食物アレルギー対策室の創設』や『高齢者への給食対応』など、多面的な機能を備えた新共同調理場運営のあり方について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2、答申起草部会委員の選出</li> </ul> <p>第1回答申起草部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1、答申原案作成</li> </ul> |
| 第5回 | 平成16年8月27日(金)                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1、答申原案の審議</li> </ul>  |
| 第6回 | 平成16年10月15日(金)                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>1、答申</li> </ul>   |

## 立川市学校給食運営審議会委員名簿

| 役職  | 氏 名    | 職 名         |
|-----|--------|-------------|
| 会長  | 宇都宮 透  | 第十小学校長      |
| 副会長 | 鈴木 里美  | 立川第三中学校保護者  |
|     | 星 淳子   | 市民公募        |
|     | 山中 美智代 | 市民公募        |
|     | 稲富 愛子  | 第四小学校長      |
|     | 清水 貞樹  | 若葉小学校長      |
|     | 高橋 宗司  | 立川第一中学校長    |
|     | 小林 明   | 立川第六中学校長    |
|     | 伊藤 洋英  | 立川第九中学校長    |
|     | 飯島 智子  | 第五小学校保護者    |
|     | 飯村 高雄  | 南富士見小学校保護者  |
|     | 嶋田 靖子  | 松中小学校保護者    |
|     | 益井 友子  | 立川第五中学校保護者  |
|     | 鈴木 和子  | 立川第八中学校保護者  |
|     | 長野 みさ子 | 東京都多摩立川保健所長 |
|     | 菅家 克彦  | 立川市学校医会     |
|     | 海老原 高志 | 立川市学校歯科医会   |
|     | 堀江 秀明  | 立川市学校薬剤師会   |

任期 平成 14 年 11 月 2 日～平成 16 年 11 月 1 日

## 立川市学校給食運営審議会答申起草部会委員名簿

| 役職  | 氏名    | 職名         |
|-----|-------|------------|
| 部会長 | 宇都宮 透 | 第十小学校長     |
|     | 鈴木 里美 | 立川第三中学校保護者 |
|     | 星 淳子  | 市民公募       |

立川市学校給食運営審議会  
会長 宇都宮 透 殿

立川市教育委員会

新学校給食共同調理場建設計画について（諮問）

1. 諮問内容

- (1) 現行の共同調理場2場方式を見直し、新施設として1場に統合することについて
- (2) 多角的な見地から、今後の小学校給食業務の効率的な運営方法について
- (3) 「食物アレルギー対策室の創設」や「高齢者への給食対応」など、多面的な機能を備えた新共同調理場運営のあり方について

2. 諮問理由

立川市の小学校給食事業は、単独校方式と共同調理場2場方式での併用運営で実施しております。しかしながら、共同調理場2場につきましても、施設及び設備の老朽化が進み、建て替えが最大の懸案となっております。

また、昭和54年度をピークに児童数は半減し、一方において平成8年度に関西で発生いたしました0-157による食中毒事故以来、施設・設備の安全衛生管理の徹底を図ることの必要性など、ソフト及びハード両面から給食運営の見直しを迫られております。

近年、全国の自治体におきましても行政運営並びに施設運営のあり方につきましては、全般的に見直すことが時代の趨勢となっており、立川市の学校給食行政におきましても例外ではなく、施設運営の効率化、運営コストの抑制などに取り組むことは必要不可欠な課題であります。

しかしながら、このような厳しい現状の中においても、「良質でより安全性の高い給食の提供」は当然のことであるとともに、「食教育の充実」「アレルギー児童対策の充実」など、さらなる市民サービスの向上に努めることは行政の責務と考えております。

そのための施設はどのようなものが望ましいかについての指針を得たく、貴審議会のご意見を求めるものであります。

つきましても、前項内容について、よろしくご審議のうえ答申を願いたく諮問いたします。

3. 答申時期

平成16年10月末